

第6学年 学級活動 指導案

平成28年5月30日（月）

1 題材 みんなに広げるあいさつ 〈イ 基本的な生活習慣の形成〉

2 題材について

本学級には、自分のしなければならない課題や仕事について一生懸命取り組むことができる真面目な児童が多い。また、よいことを進んでしようとする児童や細やかな気遣いができる児童が多く、人の役に立ちたいと考えていることが伺える。そして、最上級生となり、学校を中心となって運営するという責任の重さを実感し、全校的な視点を持ったり、相手の立場をふまえたりして物事を考えようとし始めている。一方で、「最高学年として学校のみみんなを引っ張って行きたい」、「行事や活動を盛り上げていきたい」という思いは持っているが、自信のなさや失敗することへの恐れから、大きな声を出したり、先頭に立って下級生をリードしたりすることに関しては、多くの児童が苦手としている。あいさつについてもその傾向が表れており、あいさつをすることは大切だと認識し、口にはしているが、相手に伝わらない声で言ったり、目を合わせなかったりするなど、主体的に行うあいさつには至っていない。本校のあいさつ運動を中心となって行っている企画委員会でも、「元気がない」「下を向いている人が多い」などの課題が挙がっている。そのため、最高学年である6年生に、改善しようとする思いを持たせ、主体的に気持ちのよいあいさつをしていこうとする意欲を育てていく必要がある。

6年生になると、全校をまとめるという立場から異学年と積極的に関わったり、学級の友達と協力したりすることが必要となる。そして、人と人との豊かな関わりの入り口でもあるあいさつを進めることは、関わりを広げたり深めたりすることにつながる。そして、学校のリーダーとして6年生が主体的なあいさつをすることが、全校へ明るいあいさつが広がっていくことにつながると考えられる。このような現状から、人とつながるためのあいさつを自らが主体となって行い、最高学年として学校全体に広げていけるようになってほしいと考え、本題材を設定した。

指導にあたっては、自分のあいさつに対する考え方や課題を認識させるために、事前にアンケート調査を行い、その結果を提示する。また、客観的な立場から見たあいさつの実態を知らせるために、昨年度の学校評価アンケートや年度当初の「新学期を迎えてのアンケート」による、保護者の思いも併せて伝えておく。本時では、そのアンケート結果や登校時のあいさつの様子ビデオ映像をもとに、現状の課題をさぐる。よりよいあいさつを自ら行い、全校にあいさつを広げるための手立てを考えていく際には、いつでもどこでも、だれにでもあいさつを進んで行うために、何が課題でどのように改善すべきか、ブレインライティングの手法を用いて具体的に考えていく。自己目標を設定する際には、数値や具体的な場面を目標の中に入れることを例示しながら指導し、達成した姿が明確にわかるような目標となるようにしたい。そして、一人一人の主体的なあいさつが、学校全体のあいさつを盛り上げることにつながることも押さえる。事後の指導では、自分の目標に対するふり返りを毎日朝の会で行い、2週間意識して取り組ませる。必要に応じて目標を修正するなどし、意欲をもって気持ちのよいあいさつができるようにしたい。また、道徳で「エレベーターとわたし」を関連づけて学習し、自分の目標に向かってよりよいあいさつにしようとする取り組む姿を、道徳的価値（2—（1）礼儀）へと結びつけていきたい。

3 第5学年及び第6学年の評価規準

集団生活や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活への 知識・理解
自己の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、自主的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。

4 活動と指導の見通し

	活動内容	期日・時間	指導上の留意点・資料
事前	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートをして、あいさつへの意識調査結果を提示しておく。 ・昨年度の学校評価の保護者アンケートや年度当初の「新学年を迎えてのアンケート」による、保護者の思いをとりまとめ、提示しておく。 	アンケート 5月23日（月） 結果の提示 5月25日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のあいさつのあり方を見つめ直し、素直にふり返るように伝える。
本時	<ul style="list-style-type: none"> ・集団思考による個人目標の設定 	5月30日（月） 5校時	本時の展開参照
事後	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が決めた目標に向かって2週間取り組み、ふり返りシートに記入する。達成度によっては修正、再設定していく。 ・道徳「エレベーターとわたし」を学習し、あいさつに目標を持って取り組んできたことを道徳的価値と結びつける。 	5月31日（火）～ 6月	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かって頑張っている場面をとらえて他の児童にも知らせ、意欲が継続するように働きかける。

5 本時の指導

(1) 本時のねらい

あいさつの取り組みをふり返ることで、自分たちの実態に気付き、主体的にあいさつをすることができる。

(2) 本時の展開

展開	児童の活動	指導上の留意点 ※評価（評価方法）	資料等
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果や登校時のビデオ映像から、あいさつへの認識やその実態をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果やビデオ内容から、あいさつについて課題があることを理解させる。 自分の認識と実態にずれがあることをおさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート結果 保護者アンケート結果 登校時のビデオ映像
	いつでも、どこでも、だれにでも進んであいさつをしよう。		
さぐる	<ul style="list-style-type: none"> あいさつができていない実態をふまえ、何が要因であるかをさぐる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いつでも・どこでも」「だれにでも」「実態とアンケート結果のずれ」の観点で原因を整理する。 	
見つける	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちのよいあいさつを上げるためにどのようなことが大切か話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> どのように自分たちのあいさつを改善すればよいか考える。（グループでブレインライティングをする。） 出てきた意見を紹介し合う。 	
決める	<ul style="list-style-type: none"> これからの目標を、自分の課題をふまえながら決める。 	<ul style="list-style-type: none"> いつ、どこで、どんなあいさつを目指すのか目標を決める。その際に、自分のあいさつの課題をふまえ、具体的な目標のために数値や具体的な場面を入れた目標となるよう、例示しながら助言していく。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※自分のあいさつの課題にあった具体的な目標を決めている。 <p style="text-align: center;">（自己決定カード、観察）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己決定カード

(3) 事後の指導

- ・毎日の朝の会でふり返り、2週間意識して取り組ませ、達成度によっては目標を修正させる。
- ・あいさつを進んで行き、全校に広げようと努めている児童を取り上げて紹介する。
- ・自分たちのあいさつに関する取り組みで変容したことを知らせるために、学習後のあいさつの様子をビデオに撮って見せる。
- ・道徳「エレベーターとわたし」を学習し、自分たちの取り組みを道徳的価値と結びつける。

6 板書計画

みんなに広げるあいさつ


㊦ いつでも、どこでも、だれにでも進んであいさつをしよう。

つかむ

さぐる

見つける

いつでもどこでもだれにでも
あいさつをするために

- 
- 登校班で集合したときには一人ずつにあいさつをする。
 - 校舎内で出会うお客様に、自分から先にあいさつをする。
 - 学校に来るのが早いから、教室に入ってきた人に名前を呼んであいさつを返す。

保護者

アンケート結果

6年生になって

保護者の願い

いつでも・どこでも

だれにでも

- ・登校班集合場所で
- ・教室の入り口で
- ・ろうかで

- ・同じ班の人に
- ・クラスみんなに
- ・校外から来られた方に

工夫

- ・必ず先にあいさつをする
- ・しているつもりにならないよう、届く声で言う。

1 議題 マラソン大会盛り上げ大作戦を成功させよう

2 議題について

(1) 議題選定までの経過

2学期になってから議題箱には、「マラソン大会を盛り上げよう」「6年2組として何か一つに取り組もう」「学習発表会を盛り上げよう」などの議題が入っていた。「学習発表会を盛り上げよう」「6年2組として何か一つに取り組もう」という議題はまだ先の時期だということもあり、後日話し合うことにした。10月20日に行われる校内マラソン大会を盛り上げたいと学校行事について強く目を向けている児童も多数いたことと、「運動会で団結して取り組んだ」という経験を生かすことができると考え、計画委員会の話し合いのもと、今回の議題が選定された。

(2) 児童の実態と指導観

本学級の児童は、明るく積極的に学校をよりよくしようとする児童が多い。委員会活動にも積極的に関わっている姿が見られる。また、運動会では、小学校最後の運動会なので、思い出に残るものにしたいと思い、応援練習やマーチングに意欲的に取り組んだ。たてわり班の下学年の児童に上手に声をかけている姿も見られ、最高学年としての自覚が高まってきている。その反面、人任せになりがちな児童もいて、学校のリーダーとしての意識が高まるように指導を続けている。

学級での話し合い活動では、学級や学校全体のことも考え「出し合う」「比べ合う」「まとめる」の流れや、提案理由に沿って自分の意見を述べるようになってきた。しかし、「出し合う」の時点では多く意見が出るものの「比べ合う」の部分では、どのように比べればよいのか分からない児童や、積極的に意見を言う友達に発言を任せている児童もいる。学級や学校をよりよくするために話し合いをしているという意識が持てるよう指導しているところである。

指導にあたっては、マラソン大会を盛り上げるということは、当日だけでなく事前から「みんなが励まし合って行事に向かおうとしていること」「みんなが頑張ろうという気持ちになれること」であるというイメージを持たせるようにする。また、応援にはどのようなものがあるかを調べさせ、学級会コーナーに掲示しておく。こうすることで、多様な応援を考える手掛かりにしたい。次に柱2の工夫を考える際には、出た意見を分類しながら板書させ構造的な板書となるようにする。また、質疑・応答の時間を大切に、意見の相違について考えさせ、「生かし合う」場面につなげたい。さらにマラソン大会までの見通しを持たせるために、当日のタイムテーブルや、当日までの準備期間を掲示し、マラソン大会当日までに自分たちができる工夫について目を向けて考えられるようにしたい。計画委員会には、学級会ノートをもとに事前にフロアの意見を分類・整理して構造的に板書できるようにしておく。話し合いの進め方についてもシミュレーションを行い、計画委員が自信を持って話し合いを進めることができるようにしたい。

3 評価の観点・基準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活に についての知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心を持ち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

4 活動の経過

	月 日 (曜日)	活動の場	活動の主体	活動の内容
事前	9月15日(木)	休憩時間	計画委員会	議題の選定。提案理由をまとめる。
	9月16日(金)	休憩時間	計画委員会	役割分担の決定。話し合いの計画。
	9月20日(火)	帰りの会	全員	議題の決定・提案理由の確認・個人ノートに記入
	9月28日(水)	休憩時間	計画委員会	進行の打ち合わせ
	9月30日(金)	休憩時間	計画委員会	進行の最終確認
本時	10月3日(月)	学級活動	全員	第7回学級会
事後	10月5日(水) ～19日(木)	休憩時間	全員	決まったことの準備をする。
	10月20日	マラソン大会		応援コールを使って応援する。
	10月21日(金)	チャレンジ	全員	活動の振り返り

5 本時のねらい

- ・提案理由に沿って自分の考えをまとめたり、友達の見解を聞いて考えたりして、マラソン大会を盛り上げる工夫を決めることができる。

6 本時の活動計画

議題		マラソン大会盛り上げ大作戦を成功させよう		10月3日(月) 5校時	
提案理由	先日の運動会では、6年生を中心として全校が一つにまとまりました。そこで、マラソン大会でも盛り上げ大作戦を実行することで、全校で励まし合って元気に走ることができたらよいと思います。この大作戦によって全校のみんなが励まし合う関係になったり下学年にもっと声かけができたりしたらよいと思います提案しました。			提案者	
話し合いのめあて	・全校をまきこむ盛り上げ大作戦を考えよう				
決まっていること	・期間：マラソン大会の前日までの5日間を大作戦期間とする。				
役割	司会	黒板記録	黒板記録		
	司会	黒板記録			
話し合いの順序					
1 はじめの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の発表 5 話し合い 6 決まったことの発表 7 話し合いを振り返って 8 先生の話 9 終わりの言葉					
時間	話合うこと		自分の考え・理由		
10分	柱1 (10分) どんな取り組みをするか。		<ul style="list-style-type: none"> ・コールをする。 ・横断幕をつくる。 ・放送で呼びかける。 ・パワフルタイムを使う。 		
20分	柱2 (20分) 盛り上げるためにはどんな工夫があるか。		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コール</div> …他の学年に呼びかけて一緒に練習する。 カードを掲げる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ポスター</div> …各クラスに貼ってもらう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">パワフルタイム</div> …走ったことがない1年生と走る練習をする。		
10分	柱3 (5分) どんな役割が必要か。		<ul style="list-style-type: none"> ・横断幕を作る係 ・応援コールを伝える係 		

7 教師の指導計画

話し合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<p>1 始めの言葉</p> <p>2 計画委員会の自己紹介</p> <p>3 議題の確認</p> <p>4 提案理由やめあての確認</p> <p>5 決まっていること 話し合い</p> <p>① どんな取り組みをするか</p> <p>② 盛り上げるためにはどんな工夫があるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質疑・応答 ・ 分類・整理 ・ 良い点や問題点、解決策の確認 ・ 論点の整理 <p>③ どんな役割が必要か</p> <p>6 決まったことの発表</p> <p>7 話し合いの振り返り</p> <p>8 先生の話</p> <p>9 終わりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提案理由や、決まっていることを確認しながら、話し合いを進めるよう助言する。 ・ 時間内に話し合いができるよう、時刻を表示し見通しを持たせる。 ・ 柱1では、あらかじめ短冊に意見を書いて提示し、本時は「くらべ合う」から始めるので、分からない時にははじめに質問をして解決させるようにする。 ・ 出し合いながら整理・分類することを事前に指導しておく。さらに質疑・応答をしながら短冊を分類させることで意見の相違を分かり合えるように整理する ・ 心配なところを改善・解決できるように話し合いを焦点化させる。 ・ 計画委員会に事前に話し合いの流し方をシュレーションさせ多様なまとめができるようにする。 ・ 分かり合ったり、生かし合ったりしようとする発言をしていた児童を称賛し、今後の課題を伝える。 ・ 計画委員会にねぎらいの言葉を掛けるとともに実践の見通しを持たせて、事後の活動に繋がるようにする。 	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 提案理由にそって自分の考えを友達と比べ話し合う中で、新たな意見や折衷案を見出し、マラソン大会を盛り上げる工夫を考えている。 <p>〈観察・学級活動ノート〉</p> <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マラソン大会が盛り上がる内容や工夫、役割について決めることができている。 <p>〈観察〉</p>

8 事後指導

- ・ 準備や活動の中で、児童が責任を持って取り組む姿や学級の仲間と協力して取り組む姿を見つけ、賞賛し、さらなる意欲へとつなげる。
- ・ 活動後振り返りを行い、実践したことで出てきた良かった部分、課題と感じた部分を共有するとともに今後の活動に向けての意欲につなげるようにする
- ・ マラソン大会での応援の姿を学級に掲示し、実践したことを価値づけたり、頑張ったことの成果が感じられたりするようにしたい。